

Top Interview

— 変革に挑む —

まとめ／堀水潤一 撮影／内井隆晶

2015年に国際教養学部を新設。 学是「仁」をベースとした 社会に貢献する教養人を育成

本 学は、今に繋がる日本最古の西洋医学塾として江戸時代の後期に設立されました。意欲ある若者が諸国・諸藩から集い、西洋の新しい学問を修得し、各地で実践・普及させていきました。その意味で本学はスタート段階からグローバルな視点を持ち続けてきた大学ということができます。時代を経て、島国でありながら陸続きのような環境になり、国籍も価値観も違うさまざまな人々が共存する社会になりつつある今、そのことを一層意識する必要があると感じています。

医療の世界では、患者さんの人柄や背景まで理解しないと良い治療を行うことはできません。これと同じように、外国の人と仕事を共にする際、相手の文化や歴史、常識や行動原理を知らずに良い関係など築けるわけがないのです。本学の学是は「仁」といいます。他を思いやり、慈しむ心のことです。この「仁」は、明治時代の診察券や薬の袋にもマークとして使われてきたのですが、2015年度に新設を予定している本学5つめの学部「国際教養学部」においても教育の基本に据える考えです。異なる価値観をもつ人に、伝えたいことを伝えられるだけの語学力はもちろん、自らのアイデンティティをしっかりと持ち、同時に相手に対しても理解を示す。そして俯瞰的な視野や、意欲的・主体的に学ぶ姿勢を育てます。

同学部では、これまで我々が蓄積してきた医療・健康分野（グローバルヘルスサービス領域）について学ぶことも可能です。現在、先進国を中心に認知症、メタボリックシンドロームなどの慢性疾患が深刻な課題となっており、中国やブラジルなどでも生活習慣病の増加が問題になっているように、少子高齢化は先進国だけではなく新興国の今後の課題でもあります。そこにおいては、かつて戦後の復興がアジア諸国のモデルになったように、日本の対応がモデルケースとなるはずですが、国際教養学部は医療従事者を目指す学部というわけではありません。しかし、この分野は政治的・経済的・社会的な世界共通の課題であり、どの分野に進むにしても確実に役立つはずですが。

同学部では異文化コミュニケーション領域やグローバル社会領域などについて広く学びます。こうしたなかで刺激を受け、興味を広げ、学びを深めたくなってくれることを期待します。知らないことを知る喜び、それを感じるものが成長です。自分を磨く気概さえあれば自ずと伸びていくもの。大学はあくまでも通過点であり、次へ飛躍するための器です。

順天堂大学
学長／
国際教養学部学部長（予定）
木南英紀



【学長プロフィール】こみなみ・えいき●1943年生まれ。岡山大学医学部卒業。医学博士。徳島大学医学部助教授などを経て、1988年順天堂大学医学部教授。同大学医学部学生部長、医学部長、大学院医学研究科長を経て、2008年より現職。

【大学プロフィール】1838年蘭方医学塾「和田塾」として創立。医学部、スポーツ健康科学部、医療看護学部、保健看護学部の4学部、大学院3研究科、6医学部附属病院からなる。2015年4月に国際教養学部（設置認可申請中）を開設。